

【20】 市場の失敗

外部経済効果とは、ある経済主体の経済活動が他の経済主体に利益を及ぼす効果をいう。負の効果は外部不経済効果という。

* 外部不経済を取り除く費用を外部不経済費用という。外部不経済が存在する場合には、外部不経済を取り除いた社会全体の観点から生産量水準を考える。

* 社会的限界費用 = 企業の私的限界費用 + 外部不経済費用

* 外部不経済の解決方法は、外部不経済費用を課税をとおして企業に負担させることである。

公共財は、非排他性、非競争性を備えたものである。

費用逓減産業の供給価格

企業設備投資額が巨額で、生産量を増加させればさせるほど、費用は逓減する。しかし、平均費用は需要価格よりも非常に高く、利潤は常にマイナスである。この製品を供給するには補助金で損失がカバーされなければならない。このような状況を市場の失敗という。

問題 No. 14 完全競争市場の需給均衡分析

完全競争市場における需給均衡分析について考えます。次の記述のうち、正しくないものはどれですか。なお、需要は価格の減少関数であり、供給は価格の増加関数であるとする。

- A 右上がりの供給曲線は限界費用が生産量の増加とともに増加することを表している。
- B 需要量が供給量を上回る場合は供給曲線の変化によって供給量が減少し、需給は均衡に至る。
- C 市場での取引量と価格がともに上昇した場合には、需要曲線を変化させるショックがあったと考えられる。
- D 完全競争市場においては需給が均衡する点において消費者・生産者それぞれの余剰の和は最大となる。

問題 No. 14 【解答】

(答) : B

《解説》

- A : 完全競争市場における右上がり供給曲線は、企業（生産物の供給者）の限界費用曲線の右上がり部分からなる。本肢は正しい。
 - B : 需要量が供給量を上回る場合には、価格が上昇することによって需給は均衡する。本肢は誤り。
 - C : 市場での均衡において、取引量と価格がともに上昇する場合は需要が増加し、需要曲線が右上方にシフト（外生的ショック）したと考えられる。取引量が減少し、価格が上昇した場合は、供給曲線が左上方にシフトしたと考えられる。本肢は正しい。
 - D : 完全競争市場の場合は、独占による資源配分の非効率性がないので、消費者・生産者の余剰の和は最大になる。本肢は正しい。
- よって、本問の正解肢は（B）である。

問題 No.15 不完全競争市場(1)

次の各問について答えなさい。

問1 企業行動に関する次の記述のうち、正しいものはどれですか。

- A 完全競争市場では、企業は価格と限界費用が等しくなるように供給量を定める。
- B 完全競争市場では、企業は限界費用がゼロになるように供給量を定める。
- C 独占市場では、企業は限界収入がゼロになるように供給量を定める。
- D 独占市場では、企業は価格と限界収入が等しくなるように供給量を定める。

問2 独占・寡占市場に関する次の記述のうち、正しいものはどれですか。

- A 独占市場において、企業は費用最小化を考える必要がない。
- B 独占市場の均衡においては、総余剰は最大化されていない。
- C 寡占市場においては、供給者の行動は価格に影響を及ぼさない。
- D 寡占市場においては、企業は平均費用と価格が等しくなるように行動する。

問題 No.15 【解答及び解説】

(答) : 問1 A 問2 B

《解説》

問1 A : 本肢は正しい。

B : 企業は利潤極大化 ($MR = MC$) を満たすように供給量を決定する。限界費用がゼロになるように供給量を定めるものではない。本肢は誤り。

C : 独占市場であっても、企業は利潤極大化 ($MR = MC$) を満たすように供給量を定める。しかし、独占市場における価格は、 $MR = MC$ で決定された供給量の水準の需要曲線上の価格 P (MR) で独占価格を決める。本肢は誤り。

D : 独占市場では、価格と限界収入は等しくない。供給量は $MC = MR$ の生産水準である。本肢は誤り。

よって、本問の正解肢は (A) である。

問2 A : 独占企業であっても利潤極大化 (費用最小化) を考える。本肢は誤り。

B : 本肢は正しい。

C : 寡占市場においては、供給者相互の価格がそれぞれの供給者の価格決定に影響を及ぼす。本肢は誤り。

D : 寡占市場においても、企業は利潤極大化行動をとるので限界費用と限界収入が等しくなるように行動する。本肢は誤り。

よって、本問の正解肢は (B) である。

問題 No.16 不完全競争市場(2)

次の各問について答えなさい。

問1 不完全競争市場に関する次の記述のうち、正しくないものはどれですか。

- A 企業の利潤は独占均衡において最大になる。
- B ベルトラン均衡での総余剰はクールノー均衡よりも高く、競争均衡よりも低い。
- C ベルトラン均衡とは各企業が価格を選択し、価格に応じて需要が決定する状況での均衡のことである。
- D ベルトラン均衡では価格が限界費用と一致する。

問2 各企業が同質的な財を生産している不完全競争市場の特徴と企業行動に関する次の記述のうち、正しいものはどれですか。

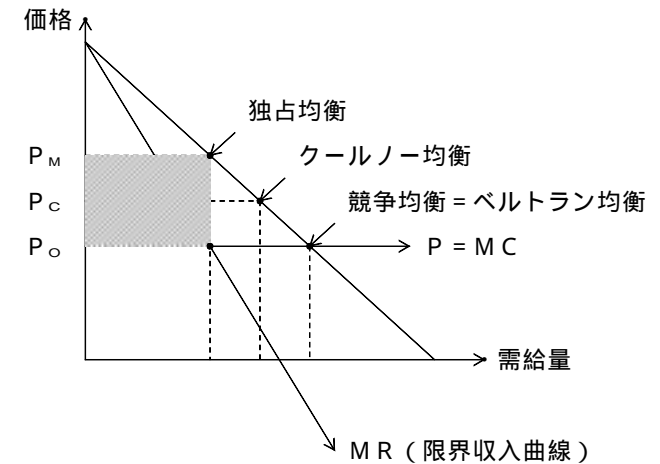
- A 価格の調整が生産量の調整よりも容易な市場では、各企業は価格を決定しその価格にしたがって取引量が決定すると考えられる。
- B 代表的な均衡を総余剰の大きさの順にならべると、ベルトラン均衡、クールノー均衡、独占均衡となる。
- C 需要の価格弾力性が1のとき限界収入は0であり、需要の価格弾力性が1より大きいと限界収入は負になる。
- D ベルトラン均衡とクールノー均衡では、達成される総余剰は異なるが生産量は同じである。

問題 No.16 【解答及び解説】

(答) : 問1 B 問2 B

《解説》

問1 競争・独占及びクールノー・ベルトラン均衡及び利潤の比較は、次のとおりである。



- A : 独占均衡による企業の利潤は上図の斜線部分であり、企業利潤が最大になる。本肢は正しい。
 - B : ベルトラン均衡の総余剰と競争均衡の総余剰は等しい。本肢は誤り。
 - C : ベルトラン均衡とは、企業は限界費用と等しい価格で販売価格を決定するというものである。本肢は正しい。
 - D : 上記(C)肢の説明より、本肢は正しい。
- よって、本問の正解肢は(B)である。

- 問2 A : 不完全競争市場であっても、企業は利潤極大化行動($MR = MC$)をとる。その下での需要曲線上で価格を決定する。本肢は誤り。
- B : 本肢は正しい。
 - C : 需要の価格弾力性が1より大きいと限界収入は正になる。本肢は誤り。

D： ベルトラン均衡とクールノー均衡では、総余剰も生産量も異なる。

本肢は誤り。

よって、本問の正解肢は（B）である。

問題 No.17 市場均衡と市場の失敗(1)

次の各問について答えなさい。

問1 市場均衡と市場の失敗に関する次の記述のうち、正しいものはどれですか。

- A 外部効果とは、市場を通じて他の経済主体に及ぼす効果である。
- B クールノー競争では、各企業の利潤は必ずゼロになる。
- C ベルトラン競争とは、価格を戦略変数とする寡占競争のことである。
- D 消費からの排除性は公共財が満たすべき性質のひとつである。

問2 市場の失敗に関する次の記述のうち、正しいものはどれですか。

- A 消費の非排除性という性質をもたない財を公共財とよぶ。
- B 外部不経済効果は市場の失敗を生じさせるが、外部経済効果であれば市場の失敗は生じない。
- C 市場の失敗とは政府がうまく市場をコントロールできないことである。
- D 費用逓減産業では、固定費が大きく、かなりの範囲で生産量が増加すると平均費用が低下する。